

平成 13 年 1 月 9 日

各 位

株式会社トーメン
（コード番号 8003）
代表取締役社長 田代 守彦
（問合せ先）
広報 IR グループリーダー
小岩井孝一 03-5288-2090

ニチメン株式会社
（コード番号 8004）
代表取締役社長 半林 亨
（問合せ先）
広報部長
古谷良樹 03-5446-1062

（株）トーメンとニチメン（株）のライフサイエンス事業の統合について

株式会社トーメン(以下トーメン)とニチメン株式会社(以下ニチメン)は、本日開催のそれぞれの取締役会で、両社の間で互いに補完しあう双方の農業化学品事業、および医薬・動物薬関連事業を統合し、メーカー機能、販売・商社機能を併せ持つグローバルなライフサイエンス事業体を作ることによって基本的に合意いたしましたのでお知らせいたします。両社のコア事業分野の統合により商社業界トップの農・医薬事業会社を設立し、連結経営下での両社の収益力をより一層強化することを目的とするものです。

なお、トーメンは、本件を株主の皆様にご審議いただくため、平成 13 年 3 月 22 日に臨時株主総会を開催することを予定しております。

基本合意の概略は下記の通りです。

記

1. 統合の趣旨

ライフサイエンス分野、特に農薬事業において、川上分野で突出した生産・研究・開発機能を発揮するトーメンと、海外川下分野で商社業界トップの展開を図るニチメンとが、事業統合を成し遂げることにより、農薬の生産、開発・登録、普及販売および商社としての総合機能を兼ね備えた商社業界トップのグローバルな農薬事業会社を誕生させる。

医薬・動物薬事業に関しては、相乗の効果が期待でき、統合会社はバイオ事業をも視野に入れたライフサイエンス事業会社となる。

これにより、事業機会が飛躍的に拡大するとともに、国内外販売網の整備拡充により収益力を大幅に向上させる。

2. 統合会社の概略(予定)

- 会社名 : 未定
本社所在地 : 東京都内
営業開始 : 2001年4月
資本金 : 未定
資本構成 : トーメン 40%、ニチメン 40%、トーメングループおよび戦略的投資家 20%。
役員構成 : トーメンより3名(代表取締役社長を含む)、ニチメンより2名。
従業員数 : 約 130名。(連結子会社含め約 1,400名)
業績目標 : 統合により大きなシナジー効果が見込まれることから、売上高 1,500億円、経常利益 170億円を目標とする。

なお、本件にはトーメンの包括的業務提携先である豊田通商株式会社にも出資の検討を依頼している。

3. 統合事業の内容

統合する組織と商品分野

トーメン :

組織 : 精密無機化学品本部生物産業部

商品分野 : 農薬、天敵農薬、微生物農薬、医薬、動物薬など

関連企業群 : Tomen Agro Inc., Hokko do Brasil など 19社

ニチメン :

組織 : 精密化学品本部農業化学品部、精密化学品部

商品分野 : 農薬、微生物農薬、肥料、医薬、動物薬、化粧品・トイレタリーなど

関連企業群 : ニチメンアグリマート、Calliope、Nichimen Agro Asia など 26社

統合分野の業績 (連結ベース、単位：億円)

2001年3月期見通し

トーメン	売上高	470
	経常利益	58
ニチメン	売上高	480
	経常利益	22

4. 統合のメリット

(1)補完性

- a.販売地域 (トーメン：日本、米州 ニチメン：アジア、欧阿中東)
- b.原体製造 (トーメン：自社製造(米国)、委託製造(日本・米国・中国)、中間体ソーシング)
(ニチメン：委託製造(欧州・インド・韓国))
- c. 製剤設備 (トーメン：ブラジル ニチメン：フランス、アフリカ等 10 カ国)

(2)効率化

- a.自社製剤化による収益の向上
- b.経費効率の向上

(3)シナジー効果

- a.販売能力拡大によるメーカーへのサービス機能・訴求力の向上
- b.販売会社拡充による収益力の向上
- c.新剤導入機会の増大

(4)環境保全事業の拡充

- a.天敵農薬、微生物農薬他バイオ農薬を展開する両社の事業統合による環境保全型農業への貢献
- b.オゾン破壊物質である土壌消毒剤臭化メチルの代替品の開発
- c.環境適応型高付加価値肥料事業の推進
- d.環境対応型シロアリ防除管理システムの普及

(5)新規分野への展開

幅広いライフサイエンス事業の展開

花卉・種苗事業の拡充と組織培養等の植物バイオ事業の推進、
畜産分野の遺伝子解析事業の深耕など

以 上